

タイトル	リオ+20地球サミットに向けて
氏名(所属)	佐藤正弘(地球サミット2012Japan、京都大学)
ホームページ	http://earthsummit2012.jp
キーワード	リオ、地球サミット、セヴァン・スズキ、
アピール文	1992年、リオで開かれた地球サミットで、人類は持続可能な発展に向けた壮大な挑戦へ舵を切りました。それから20年を経た今年、再び世界がリオに集まります。この京都からも、世界に声を届けましょう！
要旨	<p>1992年、ブラジルのリオデジャネイロで、人類史上画期的な会議が開催されました。「環境と開発のための国連会議」、通称、地球サミットです。人間環境宣言から20年目に開かれたこの会議で、気候変動枠組条約や生物多様性条約といった、現在までつながる国際環境政策の基本フレームの署名が開始されました。</p> <p>また、冷戦後の世界を導く新たな理念の一つとしてここで共有されたのが、“持続可能な発展”という考え方です。80年代から識者の中で議論されてきたこの概念は、世界170カ国の首脳が集まるこの会議を通じ、人類最大の目標の一つとなりました。まさにここから、私たちは持続可能な世界に向けた壮大な挑戦へ舵を切ったのです。</p> <p>まもなく、この希望に満ちたリオの熱狂から20年という月日が流れようとしています。その間、様々な変化が私たちを訪れました。グローバル化が進み、中国やインドなど多くの国々が飛躍的な発展を遂げました。人々の環境意識が高まり、周囲にはエコ製品が溢れるようになりました。国連では、2002年に2度目の地球サミットがヨハネスブルグで開催され、リオの誓いが新たにされました。</p> <p>しかし周りを見渡せば、依然として5秒に一人子どもが餓死し、年に4万の生物種が失われています。この20年間だけで、アルゼンチンの国土面積を上回る森林が失われ、大気中の二酸化炭素濃度は9%上昇しました。政府間の交渉が暗礁に乗り上げる中、産業革命以降の平均気温の上昇を2℃以内に抑えようという人類の目標はもはや風前の灯です。</p> <p>こうした中、国連総会で一つの決議がなされました。2012年6月、最初の地球サミットから20年という節目の年に、同じリオデジャネイロで「国連持続可能な開発会議」を開催すること——通称リオ+20の開催が決定されたのです。あれから20年、再び世界がリオに集います。</p> <p>本アピールでは、地球サミットの歴史をひもときながら、この20年間の地球と人類の歩みを振り返るとともに、今年開催されるリオ+20の概要と、それに向けた国内外の動きについて紹介します。</p>